

静岡大学教育学部自然観察野外実習報告書

1. 実施日時 令和7年11月6日(木) 13:00~16:30
2. 実施場所 静岡市駿河区 県立美術館の森
3. 実施主体 静岡市駿河区
国立大学法人 静岡大学教育学部
3. 派遣インストラクター NPO 森林インストラクターしずおか
佐野、小長井、杉山 合計3名
4. 参加者 学生15名、教授1名 合計16名
5. 実施状況



ノコンギク

〈ガイドウォーク〉

今回は、季節がら果実が多く実る時期なので、動けない植物たちが行う果実の種子散布方法を中心に解説し、観察を行った。また、植物が子孫を残すための知恵についても折に触れ説明した。



トウネズミモチ、イヌビワ、ウメモドキ、エノキ、シロダモ、マサキなど赤や黒、オレンジ色に熟し、視認されやすく変色する鳥散布植物。ユリノキ、イロハカエデ、ケヤキ、アオギリ、蔓植物のセンニンソウなどの翼や毛、葉などを利用する風散布植物。アラカシ、コナラ、マテバシイ、トチノキ、スダジイなどリスやネズミ、カケスなどで見られる貯食行動を利用したり、アレチヌスビトハギやチヂミザサ、イノコズチなど人や動物などに引っついて移動する動物散布植物。トサミズキ、アセビなど自分で飛び散る自発散布植物。このように植物により、散布の方法が違うことを説明した。学生たちは、鳥散布植物の果実が赤色ばかりではなく黒く熟するのは、鳥の色覚が人と違い、紫外域の色も見えていることを植物は知っているという事実を新たな驚きとして感じてくれたようだ。

味覚では、アセビやヤマボウシ、シイの実を味わってもらったが、中には苦手な学生もいて残念な気がした。

臭覚を使って、クサギ、ヘクソカズラの異臭、ツワブキのツンとした香り、クスノキ、シロダモ、ゲッケイジュのフレッシュな香り、カツラの甘い香りやコウヤボウキの上品な香りを楽しむことができた。

触覚では、ムクノキのザラザラ感、ウバメガシ、シャリンバイ、トベラのゴワゴワ感など初めて経験した感触で驚いていた。それぞれの木の利用のされ方についても説明し、新たな雑学的知識を増やしていただいた。

この他 A 班(杉山班)では、カイズカイブキの先祖返りの理由を説明し、強剪定などにより、スギの遺伝的形



この他 A 班(杉山班)では、カイズカイブキの先祖返りの理由を説明し、強剪定などにより、スギの遺伝的形

態が現れること、エノキの皴について、京丹後市に伝わる浦島伝説による解説を紹介した。

B班(佐野班)では、常緑樹と落葉樹の違いや紅葉のメカニズムなど基本的な話をし、何気なく見ている落ち葉にも、葉が落ちるまでには色々な仕組みが組み込まれていることを知ってもらった。また、サクラやアカメガシワの花外蜜腺を通し、植物と昆虫の関りについても理解を深めていただいた。植物以外にもジョロウグモの雄と雌、糸の特徴については、非常に興味をもったようであった。

C班(小長井班)では、イヌビワの雄株の花嚢を開いて見せ、コバチがいるのを確認した。これを基にタブレットのホワイトボードアプリに描いておいた花嚢の略図を使って「絶対送粉共生」について説明した。また、アケビの実については、複数個所で確認し、裂開していないものと裂開したものがあつたため、両方の味を比べてもらった。また、植物の知識としては、常緑樹と落葉樹、自殖と他殖、被子植物と裸子植物、葉序(互生と対生)、単葉と複葉などについて説明した。

《ミニ講座》 ~秋から冬の季節に果実が熟す鳥散布植物~



今回の自然観察実習の狙いは植物と動物や昆虫との共生である。特に植物は子孫を残すため、花や果実の時に昆虫や動物と密接な関係を保ち続け、その特性を利用して種子を完成させる。この貴重な種子をいかにして散布するか。ガイドウォークでは、この季節に実る多くの木の实を見て歩き、それぞれの種子散布方法を学んだ。ミニ講座では、その中で特に鳥散布について、果実が熟す時期と鳥との関係について考察した。

まず、この季節に果実が熟す樹種27種とそれぞれの果期、その種に集まり果実を食べ種子を運ぶメジロやシジュウカラ、ヒヨドリ、ムクドリなどの留鳥やアカハラやルリビタキなど冬に日本の高標高地や寒冷な北部から暖地に移動する漂鳥、ツグミ、ジョウビタキ、ヒレンジャク、キレンジャク、シロハラなどの越冬のため北方より日本にやってくる冬鳥たち鳥類を表にまとめ、その関連性を考えてみた。また、何故日本を越冬場所に選ぶのかも併せて考察した。

参考のため、初夏に渡りをする夏鳥についても紹介し、初夏に繁殖地として日本へ渡ってくるのか解説した。

【感想】

この自然観察実習を通じて、すべての生き物は、他の生き物を利用したり、それぞれが繋がりをもって生きていることを知ってもらった。視点を変えてみると、何気なく見ていた生き物たちには、それぞれ巧みな生き方があることを知っていただけたようで、自然観察の面白さがわかっていただけたようであった。

それとともに、将来、学生たちが子供たちに自然を語る時、今回の五感を使った楽しみ方や、まず自分が楽しむことが自然の素晴らしさ、不思議さ、面白さを伝える最高のテクニックであることを学んでいただけたのではないだろうか。